

あの日から、
歓喜の日々が始まった

6月28日、「Enjoy Oita! Welcome
FIFA」と題し、大分市内で繰り広げられる26日間のイベントがスタートした。「祝祭の広場」で行われたオープニングセレモニーに登場したのは、大分市観光大使の指原莉乃さん。彼女を一目見ようと、広場は多くの人で賑わっていた。

この日、試合を行った日本代表とアイルランド代表の戦いに、ニッポンコールが自然と沸き起こる。日本代表が勝ち取った歴史的勝利の瞬間は、最高潮の盛り上がりを見せた。この日をきっかけとして、ラグビーの魅力に、世界大会の熱狂に、パブリックビューイングの楽しさに引き込まれた人も多はずだ。

また、祝祭の広場ではフードコーナーが登場。大分で予選を行う6か国の名物料理や大分のグルメをビールと共に味わうサポーターで賑わい、交流の場となった。

イベント開催期間の26日間と、準決勝2試合・3位決定戦・決勝のパブリックビューイングが行われた4日間と、合わせて30日間で延べ35万2700人が祝祭の広場を訪れた。



世界トップレベルの
戦いが大分で

大分で試合が行われたのは、10月2日、5日、9日の予選と、19日、20日に行われた準々決勝の5試合。これは東京、横浜に次いで全国で3番目に多い試合数だ。5日間の観客動員数は延べ17万人を超え、JR大分駅近くのシャトルバス乗り場には、国際色あふれる観戦客が列をつくった。九州・山口各県から集められた約400台のバスが、試合を目前に胸躍らせるサポーターたちを次々にスタジアムへと運んでいく。会場はユニフォームを身にまとった人であふれ、母国のフラッグやタオルを手に熱狂的な応援をするサポーターも。国内外から集まったラグビーファンと市民が同じ時間を共有する。こんな体験は世界大会ならではの。

ニュージーランド代表が試合前に披露した勇壮なハカ、息を呑むプレー、試合後はノーサイドの精神でお互いの健闘をたたえ合う選手たち。緑輝く芝生の上で躍動する世界トップレベルの選手たちの姿を、私たちはきっと忘れない。

①日本対サモアのパブリックビューイング (10/5) ②オープニングセレモニーに登場した指原莉乃さん ③祝祭の広場の飲食ブースを楽しむラグビーファン ④熱狂的なウルグアイサポーター ⑤シャトルバスで試合会場へ向かう人たち ⑥「おおいたサイクルシェア」を利用して試合会場へ行くイングランドサポーター